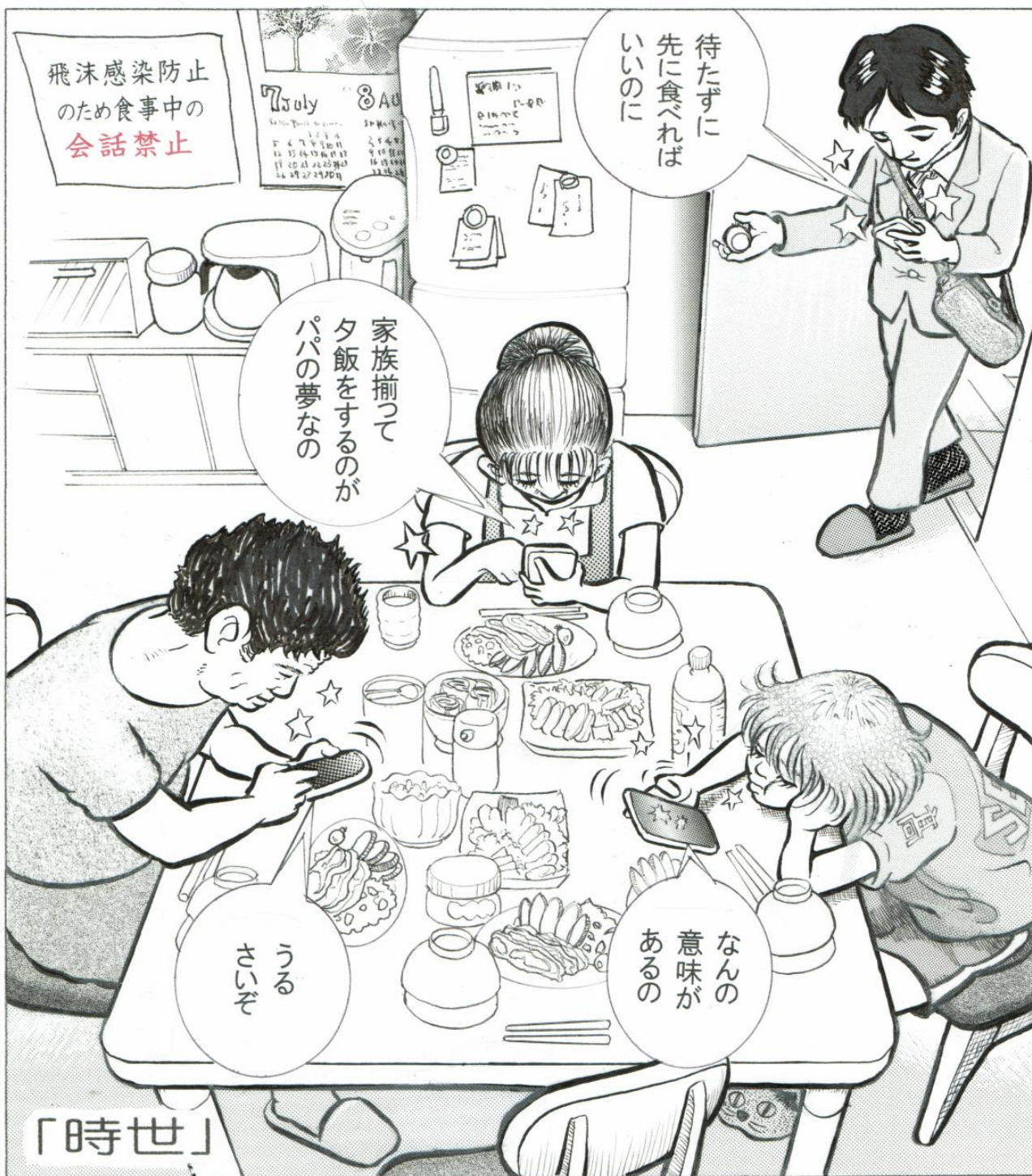


月刊  
JMITU

# チキチカ

新型コロナ対応版



7月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部  
セガ グループ分会 2020年発行

No.427

# コロナウイルス感染拡大

## GO TOトラファル?

「Go Toトラベル」をめぐる目を覆うばかりの混乱は、

政府自身が「収束後に行う」と閣議決定していた事業で、政府は突然22日からの実施に前倒した。しかし、新型コロナウイルスの感染急拡大の流れの中で疑問と批判の声が起こり、16日になって全国一律実施の方針を「東京発着を対象から除外」に変更しました。

その為、発生するキャンセル料について、補償しないとされたのを一転「補償」に変更するなど、混乱を繰り返しました。そのうえ、利用者が割引を受けられるか不明のままでの事業実施という、根本的

矛盾を抱えたスタートとなつています。

今一番やるべき事は、PCR検査の抜本拡大を行い、これ以上の感染拡大を抑えることです。

そして次に、行わなければならないのは、医療現場への支援や、九州地方の災害への支援ではないか、観光事業も厳しいのであれば直接支援をすればいいだけです。

### コロナ解雇 3万人越え 1カ月で1万人増

厚労省が把握しているだけでも、新型コロナウイルス感染拡大の影響で解雇や雇い止めをされた労働者（見込みを含む）が3万5001人（10日時点）となったことが、厚生労働省調査で17日まで

にわかりました。

1カ月前と比べて1万人も増加しました。この人数は労働局などが把握できたものに限られており、実際に解雇・雇い止めされた労働者はもっと多いとみられます。

正規と非正規の雇用形態別では、厚労省が調べ始めた5月25日以降では、約2万3000人のうち非正規労働者が約1万3000人で過半数を占めています。

### 突然解雇と言われたら 解雇には4要件が必要

使用者からの一方的な解雇は違法です。期限のある雇用でも、繰り返し更新されて雇用されている場合には、正規社員と同様、一方的な雇い止めは違法です。労働基準法で

は、「正当かつ合理的な理由」のない解雇は、「解雇権の濫用」として禁止されています。

コロナの影響で解雇というだけでは認められません。

人員を整理する整理解雇では4要件を満たさなければ不当解雇です。

- ・ 人員削減の必要性
- ・ 解雇回避の努力
- ・ 解雇する人員選定の合理性
- ・ 解雇手続きの妥当性

特に重要なのが、4番目の解雇手続きの妥当性です。

会社から「明日から来なくていいです。」では不当です。

会社と話し合い、納得できるように説明をしたかが、問われます。その際、言った言わないの話になるので、メモなど必ず記録に残してください。日時時間、場所、誰の発言かまでより詳しく残す事が後の解決に有効です。

# 4こま漫画

川崎よしき



シヨートシヨート

## 包囲網

仙洞田一彦

今日も電車に乗った。新型コロナウイルスが、再び勢いを増しているとき、出掛けたくなかったが仕方ない。友人に会わなければならぬ。電話で済むなら電話をしていたし、書類や写真を見せるだけなら電子メールで済ませていた。

「どうしても行かなければいけないのか」

と、友人に電話で聞いた。「二人で持たなければならぬものを動かすような仕事だ。三人ならなおしい。多ければ多いほどいい。もし一人で動かせるようなら、電話なんかしないよ。それとも電話口で、

ヨイシヨ、ヨイシヨと掛け声を上げてくれるか」

友人は皮肉っぽい口調で言った。助太刀を頼むのに、上から目線でものを言う。相変わらずだなと思って、電話口で思わず笑ってしまった。

どんな仕事だと聞いても、来てからのお楽しみだといって、教えない。

さいわい電車は空いていた。人と人の間に一つずつ空席を作って座れるくらいだった。立っている乗客はいなかった。ドアから遠いところの方が、密になりにくいだろうと思つて、車両の中程の席に腰を下ろした。両側は空いている。ひとつ置いて右隣は、髪を金色に染めている青年だ。腕を組んで眠っている。どういうのをイケメンというのか詳

しくは知らないが、おそらくイケメンと言えるだろう。ど

こといつて特徴はないが、マスクの上からでも、目鼻口がバランス良く配置されていることがうかがえる。朝からぐっすり眠っているから、もしかすると「夜の街関連」で、朝帰りかもしれない。間に空席があるから大丈夫だろう。

一つ置いて左隣は、黒っぽいスーツ姿。スマホをじっと見て、時々指を画面上に持つて行っている。こちらも若い男だ。年齢からすると、感染者の七、八割を占める世代だ。当然油断はできない。無症状だから感染させないというわけではない。右隣のイケメンなら警戒するが、左側のパリッとしたスーツ姿には、思わず気を許してしまいそうだ。

危険度から言うと、むしろ左隣の方にある。

真向かいには、わたしと同世代の爺だ。半そでシャツにくたびれたズボン。小さいショルダーバッグ。履き古したスニーカー。雰囲気からすると通勤途上のような。不要不急な用もないのに出かけるようなタイプではなさそうだ。感染して二週間どころりだ。いま症状が出ていなくなつて、油断はできない。

前後左右二メートルではないが、まず一安心。それもつかの間。三駅ばかりは乗り降りの人数がほぼ同じだったが、今度は降りる客より乗る方の人数が多くなつた。わたしの両側の空席も埋まった。向かい側の席も埋まつてしまった。すぐ右隣りは

若い女だった。毎日、毎回の  
ニュースで、若い者の感染者、  
しかも無症状と流されると、  
若い女だからと言って油断は  
できない。白のノースリーブ  
で長い、黒色のスカート。化  
粧も濃くなく、目はおとなし  
そうな感じだが、やっぱり油  
断できない。思わず右脇を縮  
めた。

左も若い。若い男のくせに  
腹が出ている。胴周りも大き  
い。密になる恐怖に襲われる。  
背筋を伸ばし、左脇も締める。  
どこまで乗っていくんだろ  
うか。早く降りてくれればい  
いが、わざわざ席に腰を下ろ  
したということは、二駅とい  
うことはないだろう。

向かいの席には爺も、婆も  
いたが、いつの間にか若い男  
女になっている。もっともわ

たしからすれば、人口のかな  
りの部分が「若い」ことにな  
るのだが、そういうことでは  
なく、二十代、三十代という  
ことだ。

テレビで二十代、三十代は  
感染しても、軽症か無症状と  
宣伝する。感染させる危険性  
があるということはほとんど  
言わない。若者が夜遅くのイ  
ンタビューで、「俺はかからな  
い」「不死身だ」などと叫んで  
いた。おそらく一杯入ってい  
るんだろうが、感染させると  
いうことは、すっぱり抜け落  
ちている。彼らに責任がある  
というより、テレビの方に責  
任があるのだ。

次の駅でも乗り込んできた。  
降りるよりも乗る方が多かつ  
た。その内の三人のグループ  
が、よりによってわたしの前

の吊革に掴まり、並んで立つ  
た。三人ともスーツ姿で、ビ  
ジネスバッグを持っている。  
四十代、三十代、二十代、と  
いったところだ。三人連れと  
思ったら、その三人の後ろに  
若いスーツ姿の女たちがいた。  
二重の人垣に囲まれてしまっ  
たようだ。

会話を聞いていると年長の  
上司と、その部下たちといっ  
た感じだ。一緒にどこかに移  
動中か。一応マスクはしてい  
るが、上司らしい男は顎マス  
クだ。声がでかい。隣の部下  
や、後ろの部下に話している  
うちはいい。

わたしは心の中で叫んだ。  
前を向くな。しゃべるんなら  
マスクを顎から口に移動しろ。  
次の駅でも、その次の駅で  
も降りなかった。わたしのス

トレスはたまるばかりだ。

ポケットの携帯電話が鳴つ  
た。ポケットから取り出し、  
開いたら、これから会うこと  
になっている友人からだった。  
通話ボタンを押して、耳に宛  
てた。

「どうしたんだ、とつくに時  
間が過ぎていくけど。具合が  
悪いんじゃないだろうな。具  
合が悪かったら、無理しなく  
ていいぞ。熱があるんだった  
らすぐ病院に行け」

「そういうわけじゃないんだ。  
傍に寄る人間に気を取られて、  
そればかり考えていて、K駅  
で降りるのを忘れてしまった。  
いまは囲まれている」

「え、なに囲まれている。警  
察か？ やばいじゃないか。  
来なくていいぞ。こっちはい  
いから無理するな」